

松柏大志万訪日使節団

サンバウロ 栗木 大樹

昨年12月21日から約50日、日本に研修旅行に旅立った松柏大志万学院・川村校長の第19回訪日使節団が出発の挨拶に新聞社を訪れた。日本を知つて視野を広げ伯国文化をかえりみ、自己修養の場として、1973年から実施している。

ビヤジヤンテ末藤さん

サンバウロ 橋浦 行雄

生徒は日本人の生活を知り、新しい友達を作りたい、祖父母の故郷を語り、日本文化、礼儀作法を学んできた。

今回、14～16歳の生徒の大半は初訪日となるため、1年かけて日本語を覚える

より深い研修を実現する。

思えば1952年より約3年余、毎月同地

で、その以降はフエルナンドボリス市商社（ARPAGRAL）へ

当店は間口3、4ツ有り「セツコス・モリヤド」の堂々たる店構え

で、その以降はフエルナ

ンドボリス、ジャレス市

サンタフェードスール港町へ

広まる介護ボランティア

お年寄りの生きがいに 36都道府県の75自治体

【共同】元気なお年寄りが介護施設でお茶ぐみや行事の手伝いをする「介護支援ボランティア制度」が全国に広まっている。社会参加に生きがいを感じ、健康を維持してもらうのが狙い。自らが要介護状態になるのを防ぎ、介護給付費の抑制につながったとの試算もある。東京都稲城市によると昨年11月現在、36都道府県の75市・区・町・村が同様の制度を設けている。

稲城市内の介護施設の利用者に「松竹梅園」（いなぎ苑）。市の介護の貼り絵を指導している支援ボランティア制度で登録した渡辺光栄さん（75）が、教室で7人取り、緑色の千代紙を

（75）が、教室で7人取り、緑色の千代紙を

（75）が、教室で7人取り、緑色の千代紙を



ブラジル文学に登場する日系人像を探る

オ・アンドラーデの『基忠』

中田みちよ

第4回

5

この辺はオズワルド自身が投影しているようだ。勝手気ままに席を離れる、机をたいては叫んでいた。先生がドアを閉めた。「さあ、すわって」。机に頭をかくすカボクロをうかがいみた。「ユウレイはいないの？」。オズワルドは日本学校に書いた。：：アオイウマ。

オズワルドは日本学校の存在を知っていたんだ

時々、「読む」というのは独善だナアと苦笑いします。正解など存在しない。

エウフラジア先生は遅刻して学校に着いた。ハエが傷だらけの女

の子の上を飛んでいる。

「やかましいわねえ、みんな」教室は叫び声が満ち、混乱していた。

エウフラジア先生は、クリフレインをくりかえ

が、髪の黄色い子どもの

はいないと教えない

教室で子どもた

日本人の子は椅子から

しませてもらっている

と施設側にも好評だ。

稲城市は人口約8万6千人で、65歳以上の高齢者は約1万5千人。この25割はボランティア登録による、退職後は約500人で、登録者の

初挑戦だ。

市工藤綾里子介護保

従事員によると、退職後は約420キロあり、F

テイ」とつぶやくと、笑い声がはじけた。

希望者は市の社会福祉協議会に登録して施設を紹介してもらう。活動内

容は入居者の話しあい、洗濯物の整理やシーツ交換などで、約1時間が100ポイント＝100円

に換算され、年間最大5千円の現金に交換できる。

稲城市によると、制度は同市が中心になって

考え出した。

「この活動が生活の張りになつていて」と渡辺さん

（75）が、教室で7人取り、緑色の千代紙を

（75）が、教室で7人取り、緑色



幸良と申します。
今日はよろしくお願いします。
淀みのない日本

第2の子供移民の夢と現実

第8回

日伯教育矛盾の狭間で

だいじどもいみん

ゆめげんじう

だいがく

かく

めぐらしき

むじゅん

はざま

だいじとく

めぐらしき

</div

